

中野本郷小学校改築推進委員会 要 点 記 録

第 5 回

開 催 日 時	令和3年11月15日(月) 午前10時～11時	
開 催 場 所	中野本郷小学校 会議室	
出席者	委 員	関正行、杉下文昭、齋藤明美、高野允雄、漆原勲、山崎征子、藤原義之、池田麻友美、佐藤三千子、那須京子、山崎由紀子、久保真由美、柳沢晶子、奥田正朋、濱口求、塚本剛史 (敬称略、名簿順)
	事務局	学校再編・地域連携係
	その他	子ども教育施設課
会 議 次 第	<p>【開会】</p> <p>1 委員の委嘱について</p> <p>【議事】</p> <p>1 中野区立小中学校施設整備計画（改定版）について</p> <p>2 中野本郷小学校校舎等整備基本構想・基本計画（案）について</p> <p>3 その他</p>	

第5回 中野本郷小学校改築推進委員会 会 議 要 旨

1 開会

委員長

定刻となったため、これより第5回推進委員会を開会する。なお、本日、傍聴者はいない。委員の変更があったので紹介する。

1 (1) 委員の委嘱について

(1) 委嘱状交付（学校再編・地域連携担当課長より新委員へ委嘱状交付）

(2) 委員紹介（自己紹介）

- ・本町通六丁目町会 山崎 征子委員
- ・中野本郷小学校副校長 奥田 正朋委員
- ・学校再編・地域連携担当課長 濱口 求委員

2 議事

議事（１）中野区立小中学校施設整備計画（改定版）について

委員長

それでは、議事に入る。別紙１「中野区立小中学校施設整備計画（改定版）について」、子ども教育施設課長の説明を求める。

子ども教育施設課長

■資料「中野区立小中学校施設整備計画（改定版）について」

中野本郷小の改築計画については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う区の財政状況を踏まえ、一旦、停止とさせていただいた。皆様には大変ご迷惑、ご心配をおかけし、心よりお詫び申し上げます。

今後、多くの学校が建て替えを控えており、校舎建て替えは費用が膨大な事業である。今後の区の財政状況を鑑みてスケジュール等を精査しなおし、区役所や区民活動センター等の区有施設の整備計画も踏まえ、「中野区立小中学校施設整備計画」を改定した。本日は、この「中野区立小中学校施設整備計画（改定版）」について、ご説明したい。

中野本郷小のほかにも、19ページには各学校の整備スケジュールを表で示しており、表中ア～シの順に建て替えを進めていく。改定版の計画期間は令和3年度～令和12年度の10年間となっているため、表には、武蔵台小までのスケジュールしか記載されていないが、この後も10校程度が建て替えを控えている。全ての学校の建て替えを終えるには、20年以上かかる見込みである。今後、1年に1校ずつ各学校の建て替えに着手することとなる。

中野本郷小については、表中オのとおり、令和4年度から2年かけて基本設計・実施設計を行い、令和6年度から改築整備に着手する。改築整備期間は2年半となり、令和8年度の途中で新校舎移転となる。

計画改定前のスケジュールからは、ちょうど2年後ろ倒しとなる。今後建て替えを予定している学校のスケジュールについても、全体的に2年、あるいは2年以上後ろ倒しになる。また、建て替えに着手するまでの間は、子どもたちが安心して学校に通えるように、既存校舎の適切な維持管理に努める所存である。

なお、表中ア～エにある鷺宮小・西中野小の統合新校、南台小、明和中の3校は、統合校であり、「中野区立小中学校再編計画（第2次）」において、統合後の校舎建て替えを前提としていた。統合により子どもたちの数が増え、代替校舎では窮屈な状態であることから、前述の3校については事業を停止せず、予定どおり建て替えを進めてきたところである。

なお、表中コの桃花小については、統合校ではあるが、統合時に大規模の改修工事を行っていることから、他の統合校とは異なり、すぐに建て替えを行わなかった。

その他、この2年間で教育環境を取り巻く状況も変わっているため、そうした細かい内容についても、改定版に反映している。

委員長

説明のあった内容について、何か質問はあるか。

－特に発言なし－

議事（２）中野本郷小学校校舎等整備基本構想・基本計画（案）について

委員長

続いて、「中野本郷小学校校舎等整備基本構想・基本計画（案）について」、子ども教育施設課長の説明を求める。

子ども教育施設課長

■資料「中野本郷小学校校舎等整備基本構想・基本計画（案）について」

2年ほど前の第4回推進委員会でも、案という形でご覧いただいていたが、その後に修正した一部内容について、ご説明する。

1ページの「新校舎等の整備スケジュール（予定）」及び2ページの児童数の推計について、令和3年度現在のものに変更した。中野本郷小については、学級数の想定に大幅な変化はなく、1学年おおむね2学級ずつ推移していくと推計している。

また、小学校の学級編制基準について、令和2年度より、40人学級から35人学級へ段階的に移行することが文部科学省より示された。現在、区内の小学校では、1～2年生が35人学級、3～6年生は40人学級であるが、令和7年度を目処に1～6年生の全ての学級が35人編制となる。そのため、2ページの推計表には、新しい学級編制基準による学級数を反映している。

中野本郷小の令和3年5月1日現在の児童数については、一番多い学年でも1年生の67人で2学級である。この人数であれば、学級編制基準が40人から35人に移行しても、現在と同じ2学級となる。一方で、例えば、71人のクラスの場合、従来の基準であれば2学級で良いが、新しい基準では3学級となるため、人数によっては学級数に影響が生じる学校もあるかと思う。さまざまな状況を加味しながら、今後の学校整備を行っていく。

また、6ページ（3）の「⑤自然と直接触れ合える、緑豊かな自然教材園（グリーンガーデン）」と7ページにある、その整備方法については、新たに追加した文言である。もともとグリーンガーデンは残すこととしていたが、どのように残すか、ということろまでは計画の中で示されていなかった。学校との話し合いを通して、新校舎になってもグリーンガーデンは中野本郷小の宝であり、特徴であることから、記載を追加した。

7ページに記載のとおり、あくまでも既存のグリーンガーデンを最大限生かしながら、必要に応じて環境を整備する。

新校舎は一足制となるため、校舎とグリーンガーデンの行き来で校舎内が汚れないよう、グリーンガーデンの通路をウッドチップにして靴裏に泥が付きにくくするなど、再整備していきたい。

また、13～15ページの基本配置について、少し手を加えた。大きな変更はないが、1階の配置を一部修正し、2・3階の教室数や配置を変更した。

今後の設計作業については、設計会社に委託し、適宜見直ししながら詳細を詰めていくため、基本構想・基本計画（案）で示した建物の外構や配置等から更に修正が生じることとなる。

これまでさまざまご意見を頂戴していたところだが、令和4年度より基本設計・実施設計の作業に入るため、適宜、皆様にもご説明し、何かお気づきの点があればご意見をいただきたい。

委員長

説明のあった内容について、何か質問はあるか。

委員

キッズ・プラザの図面の見方がよく分からない。

子ども教育施設課長

1階平面図の左下のピンクのゾーンには、「学童クラブ」と記載された部屋が2つある。キッズ・プラザは、その右下の「活動室」と記載された2つの部屋を想定している。

委員

中野第一小のキッズ・プラザは、1階に活動室があるが、みなみの小のキッズ・プラザは、1・2階に活動室があるかと思う。中野本郷小新校舎のキッズ・プラザの活動室は、1階部分のみか。

また、みなみの小と中野第一小のキッズ・プラザを見学したことがあるが、みなみの小は1・2階に活動室があるのに、トイレが1階にしかない。2階の活動室にいる子どもたちは、トイレの度に1階に降りなければいけない点に不便を感じていたため、中野本郷小の新校舎には、そうした不便が生じないか確認したい。

子ども教育施設課長

中野本郷小のキッズ・プラザは、1階部分のみである。キッズ・プラザの活動室の広さについ

ては、中野第一小と同じくらいである。

委員

先ほどのトイレの件以外にも、みなみの小と中野第一小の新校舎のキッズ・プラザでは、いろいろ不便な点があると聞いている。

まず、靴箱の数である。中野第一小については、新校舎の運用開始当初、靴箱がなかったため、後から設置したものの、十分な収納量が確保できていない。そのため、最初から十分な数を設置いただきたい。

2つ目は、廊下である。中野第一小のキッズ・プラザの廊下は、子どもたちが行き交うのには少し狭いと感じたため、廊下の広さについても考えていただきたい。

3つ目は、キッズ・プラザの入り口である。みなみの小の入り口は結構広いが、中野第一小は狭い。入室時に利用証を提示する際、読み取り機が1台しかないこともあり、下校時間になると外まで行列ができてしまう。雨の日に、傘を差して並んでいる様子を見かけたことがあるため、その点は改善できればと思う。

また、みなみの小と中野第一小は、子どもの数に対して水道栓の数が少ないと感じる。

キッズ・プラザと学校施設に関しては、先行の学校から、ご意見を伺っていただき、今後の設計作業に反映してもらいたい。

子ども教育施設課長

キッズ・プラザと学童の需要は高く、学童は既に定員を超え、キッズ・プラザも満員に近い状態で窮屈な部分が出てきているという話を聞いている。ご提案いただいたように、先行の学校のご意見を聞きながら、今後の設計に生かしたい。

当初、校舎とキッズ・プラザは、ともに一足制で運用する予定だったが、キッズ・プラザについては、所管の育成活動推進課と運業者による話し合いにおいて、放課後は靴を脱いで過ごせた方がよいのではないかということで、方針転換した経緯がある。そのため、みなみの小と中野第一小のキッズ・プラザには、あらかじめ靴箱のスペースを確保していなかった。キッズ・プラザについては、新校舎移転後も靴を脱いで利用することとなるため、今後、建て替えをする全ての学校について、キッズ・プラザ用の靴箱を設置する。

水道栓やトイレの数についても、現在の利用状況をしっかりと把握した上で、改めて見直したい。

新校舎に移転した学校が複数校あるため、新校舎のメリットとデメリットについて、先行の各学校の校長先生をはじめ、教職員の方々に確認をしており、今後の設計作業に向けて、可能な限り、対応できるよう取り組んでいる。

また、新校舎の運用開始前は、保護者の方からの一足制に対する不安の声が非常に多かった。みなみの小と美鳩小の新校舎移転後は、当初の懸念やご批判の声はなく、好意的な反応をいただけている。また、子どもたちにも大変喜んでもらっているようで、寝転んで気持ちよく過ごしたり、人工芝ならではの活動を楽しめるようになった点は、非常に良かったと思う。

さまざまな面で、先行の学校の様子を見ながら判断していきたいと思う。

委員

みなみの小と中野第一小の人工芝は、私も触ってみたことがあり、すごく気持ち良かった。ただ、新校舎の校庭の人工芝にはスプリンクラーが設置できないため、夏は、気温により熱くなった人工芝を冷ますために、先生方が水まきをしていると聞く。中野本郷小の新校舎の人工芝には、設置スペースを確保した上で、スプリンクラーを設置することはできないか。

子ども教育施設課長

人工芝を敷く前であれば、スプリンクラーを設置することは可能である。既に設計作業が終わり、校庭が完成している学校については、地下に配管等を整備する必要があるため、スプリンクラーを設置するとすると、人工芝を全て張り替えるタイミングまで待たないといけない。また、本五ふれあい公園にも人工芝はあるが、そこで使用されているのはゴムチップを充填しているタイプの人工芝である。新校舎の人工芝は、そうしたものよりも熱くなりにくいタイプのものを使

用していることから、スプリンクラーを設置しなかった。

ただ、必要に応じて水まきが必要になることは想定していたものの、頻度は少ないと考えていた。夏は人工芝にどの程度温度上昇があるのか、先行の学校の状況をよく把握し、スプリンクラーの設置の是非について検証したい。仮に、スプリンクラーが設置できなくとも、水道を多めに配置してホースによる水まきを可能にする等、さまざまな方法を探っていきたい。

委員

プールについては、第3回推進委員会で意見を申し上げた際、既に新校舎にはプールをつくることが決まっているとされたが、今年6月の「東京新聞」において、葛飾区や複数の自治体では、学校のプールを改修・新築しない、という記事を見た。また、保護者の方からは、7月は梅雨の影響により雨で入れない日が多く、梅雨が明けても気温が高すぎて入れない、という話を聞く。プールは、1年に何回入れるか、という状況に対して、維持費が膨大ではないのか。もちろん、子どもたちのためになることであればお金をかける必要はあるが、本当にプールをつくる必要性はあるのか。民間等の施設を借りて運用するやり方も視野に、改めて子どもたちにとって一番良い方法を考えていただきたい。

また、昨今では、環境問題の一つとして気温の上昇が度々取り沙汰される。例えば、発電には太陽光を利用したり、水洗トイレに雨水を使用する等、環境問題への取り組み方はいろいろあると思う。

現在は、ごみ処理過程等で発生するマイクロプラスチックも大きな問題であるが、人工芝のプラスチックも、消耗により微細となったプラスチックは、全て海に流れつくと思う。

これらの環境問題については、学校でも子どもたちに教育してほしいと思っている。また、子どもたちのみならず、保護者や先生方にも学んでいただけるような、環境への配慮に重点を置いた計画を立てていただけると嬉しい。

子ども教育施設課長

まず、プールについては、教育委員会の中でも、年間の使用回数に対して、果たしてそれだけの費用をかけて設置する必要があるものなのか、という認識はある。学校の敷地外に屋内プールを整備して運用する方法は、他の自治体でも例があるが、子どもたちの移動が必要であるなど、課題もある。子どもたちにとってよりよい方法を考えた結果、費用をかけてでも各学校にプールを設置した方が良いと考えているため、現時点では、各学校のプールを廃止する議論には至っていない。

次に、環境教育についてだが、先行の学校も含め、新校舎にはソーラーパネルを設置している。昇降口に設置されたモニターに発電量が表示されるため、子どもたちも毎日確認することができる。学校全体を太陽光発電のみで賄うことはできないが、エコエネルギーの考え方等について、教育活動の一端を担えたらと思っている。

最後に、マイクロプラスチック問題については、私も十分承知している。擦り減った人工芝のチップが全く流れないとは言えないが、側溝の集水枡等にトラップをつけ、人工芝の破片が下水に流れないように、最大限の配慮をしている。教育活動という観点からすれば、人工芝は水はけがとても良いため、子どもたちが外で体を動かす機会をたくさん確保でき、メリットも多い。今後も、総合的に考えながら進めていきたい。

委員

中野本郷小は、第二中が近くにあるため、第二中のプールを共有することはできないか。

子ども教育施設課長

中野本郷小はその方法で良いかもしれないが、区内全校における運用方法を考えると、一つのプールを複数校で共有することは難しい。

委員

運用方法を全校一律に考えるのではなく、各校の状況に応じて考えれば良いと思う。中野本郷小の場合は、第二中が近くにあるため、プールを整備するより、そのお金をグリーンガーデンや、子どもたちのために使えたら良いのではないか。

子ども教育施設課長

全校一律に考える必要はないが、各学校の公平性や、区立学校全体の運営方針等があるため、各学校ごとに整理することは難しい。おっしゃることは大変よく承知しており、今のご意見も含めて、可能な限り柔軟に考えていきたい。

委員

2階の屋内運動場近くの備蓄倉庫には、防災用品が入るのか。

子ども教育施設課長

そうである。屋内運動場が避難所になった時を想定して、避難食や屋内で使用するもの等を備蓄しておく。ポンプ等の屋外で使用を想定しているものは、外に置いておく。

委員

先ほどのプールの件で、災害時にプールを活用するのは分かるが、近年の気温の高さを考えると、なぜ屋外に設置するのか。通年とまではいかなくとも、多少の暑さや寒さにも対応できるよう、屋根を設置するのはどうか。

子ども教育施設課長

全体に屋根をつけることはできないが、子どもが控えるプールサイド部分には、最大限ひさしをつけたいと考えている。

委員

中野本郷学童クラブの定員は何名か。

子ども教育施設課長

定員はわからないが、おおむね50名から100名程度であったと思う。

委員

改築期間中は、中野第一小跡施設（旧向台小。以下、「中野第一小跡施設」という。）に通学することになると思うが、以前にも出たスクールバスの話は、どこまで進んでいるか。

学校再編・地域連携担当課長

先日、担当職員と一番距離が遠いと思われる本町六丁目の新渡戸文化学園辺りから中野第一小跡施設まで、かなりゆっくりしたペースで歩き、45分程度かかった。最も遠い距離に住むお子さんの通学時間のは現在の倍となると認識したところである。また、歩きながら、スクールバスとなった場合の乗降スペースがないか、徒歩通学の場合は危険な場所はないか等を確認した。第二中から中野第一小跡施設までの川沿いの道はきれいに整備されており、比較的、車も少なく歩きやすい道である。

これまでも皆様から、通学の距離、時間が長くなることが見込まれるというご意見があり、私も大きな課題だと捉えている。スクールバス検討状況としては、バス会社より話を聞くなど、スクールバスの可能性について探っており、運行の可否については検討中である。あわせて、通学路の安全対策、公共交通機関の利用等、さまざまな方策も可能性を探っていきたい。

委員

以前の推進委員会において、仮にスクールバスを運行する場合、最低限、低学年には出すことを考えていると話があった。実際に運行することとなった場合、大人でも徒歩45分かかる距離だが、3年生以上は歩くこととするのか、朝に関してはどの学年も利用可能とするのか。

学校再編・地域連携担当課長

中野区では、区立小中学校の送迎バスを運行したことがなく、スクールバスを導入する場合は、利用対象をどうするかが課題だと思っている。今後、改築を控えている学校にも影響があるため、学年や通学距離等、さまざま考慮しながら検討したい。低学年に限らず、お子さんを持つ全ての保護者の方にとって、心配なことであると感じている。

一方で、体力や健康面から、通学にはある程度歩くことも必要だと思っている。いろいろな要素を考えながら、適宜、皆様にご相談させていただきたい。

委員

スクールバスの運行可否については、いつ頃最終決定できるか。中野本郷小に通学するお子さ

んをもつ保護者の方や、中野本郷小の通学区域内に居住する未就学児の保護者の方にとっては、特に気になるところかと思うので、性急な判断は望まないが、代替校舎移転の1年前頃には判断いただけるとありがたい。

学校再編・地域連携担当課長

そうした事情を含め、運行する場合は膨大な予算を確保する必要があるため、できるだけ早く対応を考えたい。

委員長

ほかにあるか。

—特に発言なし—

委員長

予定していた議題は全て終了した。次回開催日程について、事務局の説明を求める。

事務局

■資料2「中野本郷小学校改築推進委員会開催スケジュール」

令和元年度、2年度には、これまでの協議内容と開催日を記載している。今後の開催予定については、今年度は本日の1回、令和4年度は3回、令和5年度は2回、令和6年度以降は未定としている。実施回数については、資料下部に※印で記載のとおり、協議の進捗状況に応じて増減することをあらかじめご承知おきいただきたい。

なお、次回第6回は、基本設計（案）がまとまってからの開催となるため、令和4年12月頃を予定している。時期が近づいたら、改めて事務局から開催通知を送付する。

委員長

本日の委員会はこれをもって終了する。